(No.07J0026)

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

１．事故・ヒヤリハットの別	事故
２．体験した事例の名称	金属加工工場火災現場での天井クレーントロリー線感電事故
３．体験した事例の中心的要素	平成 19 年 3 月 25 日午前 8 時頃、○○市○○地先　○○工業㈱　建物火災に救助隊（工作車機関員）として出動。工場内の火勢鎮圧後、工場内天井部分の残火を確認する為、三連梯子を天井クレーン用レール（高さ約６ｍ）に架梯し進入。三連梯子上にて作業姿勢をとり、自己確保ロープをレール南側横のパイプに設定し確認作業中、レールの約１ｍ上に配線されたトロリー線（三相）に接触感電した。一時意識が無くなり三連梯子上で宙吊り状態になったものの意識が戻り、救助隊員によりかかえ救出にて地上に降梯し救急車に収容され、総合病院に搬送されたもの。
４．体験した事例の原因・理由	天井に配線されていたトロリー線が電線だという認識不足。工場内及び天井部分が薄暗く視認しずらかった。また、工場内の主電源の切断をしていなかった不備等、危険に対する予知、予見不足。

【体験した事例の直接的原因について】

１．体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。

【体験した事例について】

１．発生日時	**平成**　19 **年**　3 **月**　25 **日**　　**午前**　8 **時頃**
２．発生した当時の天候	雨
３．発生した活動現場	屋内：金属加工会社工場
４．体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
７．事例体験時の活動	火災、現場活動終了時、　[防火造建物]
８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか	残火整理、
９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者Ａ	年齢[37]歳、 勤続年数[16]年、 現場経験年数[13] 年、 階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者Ｂ	年齢[37]歳、 勤続年数[19]年、 現場経験年数[19]年、 階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者Ｃ	年齢[32]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[13]年、 階級[消防士長]、同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
その他 (当事者が４人以上の場合)	年齢 35 歳、勤続 13 年、現場経験 13 年、階級　消防士長、同様の活動　頻繁、任務　隊員。

１１．事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過１	Ｂ	指揮者から、残火確認の任務付与を受ける。	
経過２	Ｂ	Ａ・その他に残火確認活動の指示をする。	
経過３	Ａ	三連梯子を使用し活動開始。	
経過４	Ａ	感電する。	
経過５	Ｂ・Ｃ・その他	救出活動にとりかかる。	
経過６	Ｃ	Ａを抱え救出により救助。	
経過７	Ａ	救急隊により収容搬送される。	
経過８			
経過９			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

ｂ．注意力が欠如していた

・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	はい
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

ｃ．経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

ｄ．心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

ｅ．資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

ｆ．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

ｇ．行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

ｈ．足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

ｉ．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

ｋ．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

ｌ．その他の理由があった。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

○注意力欠如、焦り等の対策について

いかなる現場（危険度の大・小にかかわらず）においても、最大限に注意力を発揮し、個人レベルではなく隊全員、更に出場隊員全員で注意し合うよう再認識した。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

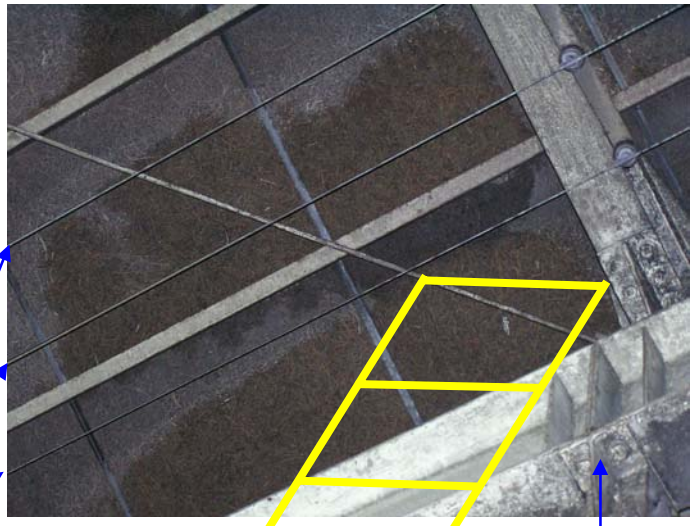
工場内は様々な動力による機械が存在しているので、活動の初動には主電源の切断を講じる。　現場の状況を出動隊に周知徹底させる。

建　物　平　面　図

出火箇所周辺

受傷場所

災害発生状況　１図

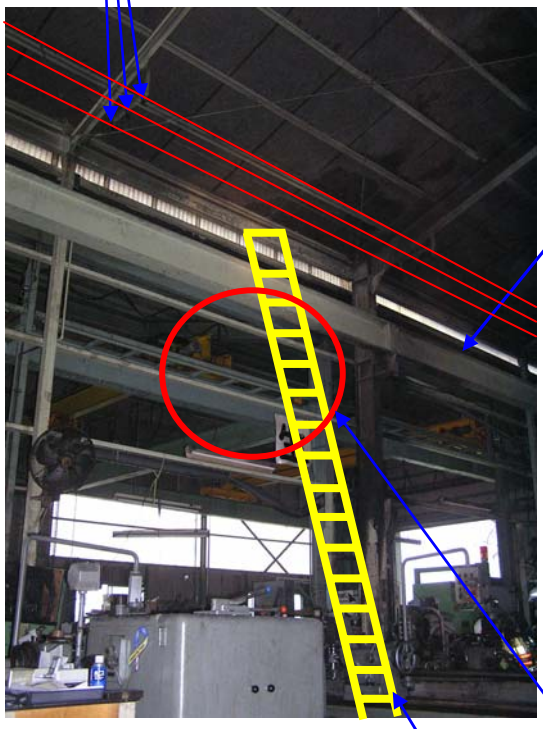


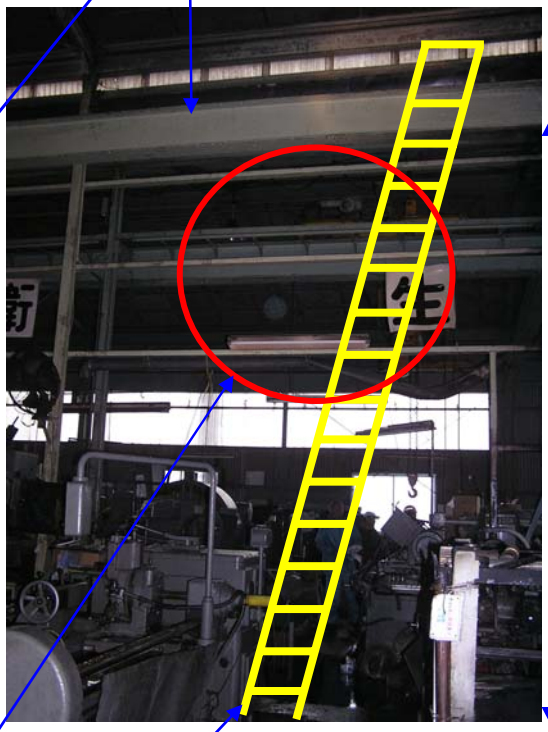
天井クレーンレールからトロリー線まで1m

天井クレーンレール及びトロリー線を撮影

トロリー線
間隔約30cm

天井クレーンレール





床から約6m

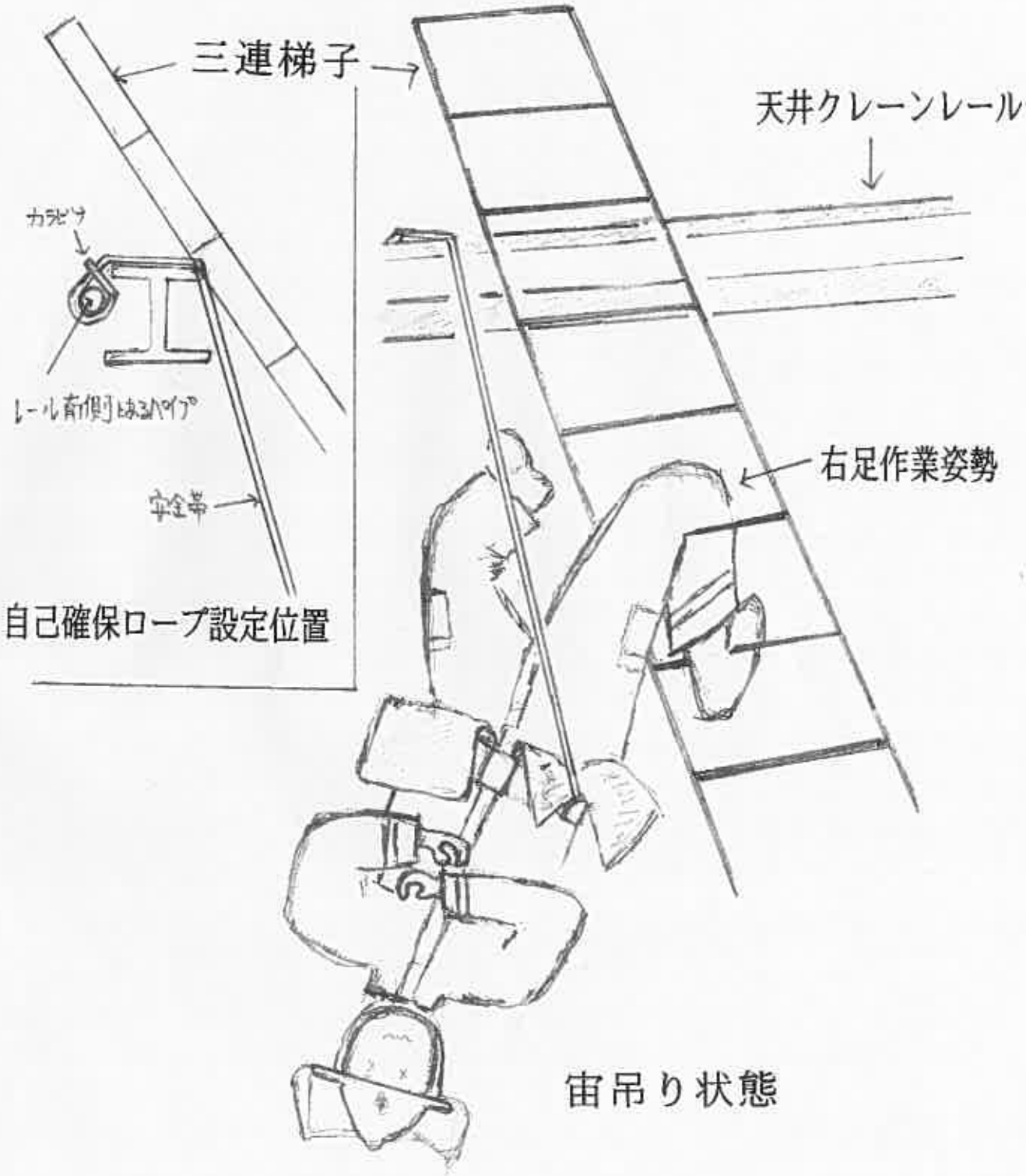
北西側より撮影

宙吊り箇所

西側より撮影

三連梯子

災害発生状況　2図

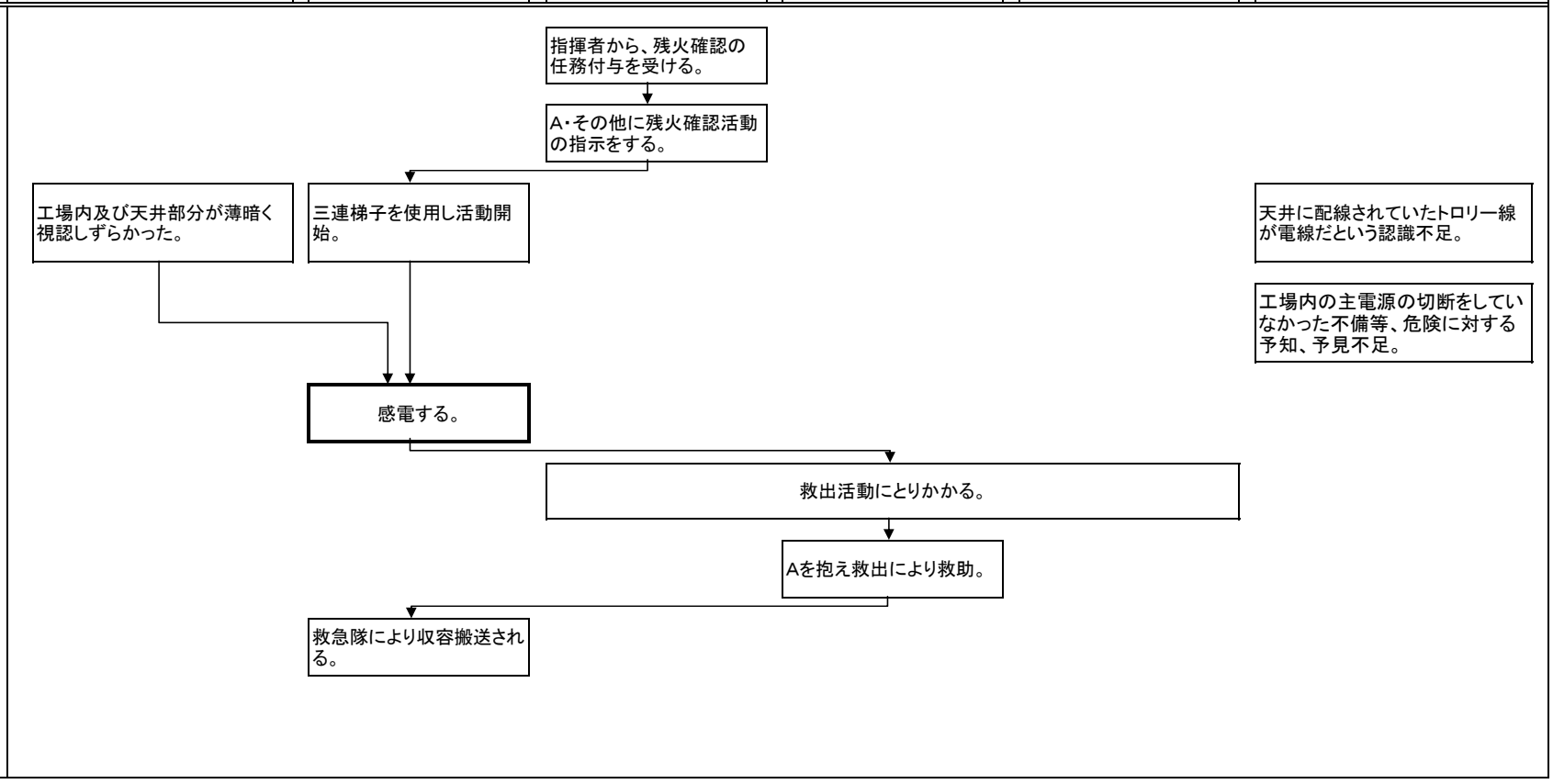


○事故事例：金属加工工場火災現場での天井クレーントロリー線感電事故　(07J0026)

（同様の体験は、初めて体験した。）

・発生日時　：平成１９年３月　午前８時頃

経過	現場の状況	隊員A 機関員／消防士長 ・年齢 37 歳 ・勤続 16 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:頻繁	隊員B 車長／消防士長 ・年齢 37 歳 ・勤続 19 年 ・現場 19 年 ・同様の活動:頻繁	隊員C 隊員／消防士長 ・年齢 32 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:頻繁	その他 隊員／消防士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 13 年 ・現場 13 年 ・同様の活動:頻繁	備考



◎事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○直接的な原因：状況判断に問題があった。
・危険情報を把握、予見できなかった。
・集中力、注意力がなかった。

◎事故が起きた背後要因

（心理・体調について）
・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。